

【重要課題：子どもたち】

道徳科学習指導案

主題名「明るい心で」〔学指要領：A（２） 正直 誠実〕

令和〇年〇月〇日（〇） 第〇校時 ３年〇組教室

人権教育としての授業研究の視点

主人公が自分の過ちに気付き、正直に本当のことを伝えた場面において、そのときの気持ちや行動について話し合うことは、過ちを素直に改め、正直であることの大切さに気付き、正直に明るい心で生活しようとする態度を育てることに有効であったか。

I 主題設定の理由

1 価値観

児童が健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちを偽ることなく、何事に対しても真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。過ちや失敗は誰にも起こり得ることであるが、そのときに、自分が責められたり、不利な立場に立たされたりすることを回避しようとうそを言ったり、ごまかししたりして、その場をやり過ごそうとすることもある。しかし、そのような振る舞いはあくまで一時しのぎに過ぎず、自分自身も偽ることになり、真の解決には至らない。

そこで、他者に対してうそを言ったりごまかししたりすることは、自分自身を偽ることにもつながることに気付かせたい。その上で、正直であるからこそ、明るい心で、伸び伸びとした生活が実現できるという理解につなげ、正直であることの快適さを自覚できるようにすることが大切である。

2 児童観

削除

3 教材観 教材名「モンたんとケロきち」（出典：どうとく 3 きみがいちばんひかるとき 光村図書）

学級新聞のキャラクターのどちらをクラスの旗に描くかを投票で決めることになった。集計の結果、一票差で「モンたん」の絵が選ばれた。しかし、理子は前日に受け取った「ケロきち」と書かれていた投票用紙をランドセルにしまったことを思い出す。理子はどうすればよいか悩んだが、本当に選ばれていたのは「ケロきち」であると真実を話す。正直に伝えた理子とその行動を受け止めた平太に対して、クラスのみんなは大きな拍手をするというあらすじである。

本教材は、主人公の理子が自分の過ちに気付いたときに、黙っているか正直に話すかを葛藤した結果、正直に話したことで自分も周りも明るい気持ちになり、正直であることの良さ感じられる教材である。

主人公が過ちに気付き、正直に伝えたときの心情や行動について考えることを通して、正直であることの大切さや、そのことが快適に生活するためには必要であることに気付くことができる教材となっている。

4 人権教育とのかかわり

群馬県教育ビジョンでは、一人一人がエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「自律した学習者」の育成が示されている。児童がエージェンシーを発揮するためには、自分自身の気持ちに偽りなく、明るく楽しい生活を心がけようとする姿勢が大切である。しかし、自分の過ちを認めずに偽ることは、自責の念に駆られるだけでなく、他者の信頼を失ってしまうこともある。そのため、正直であることは自分の生活を明るくするだけでなく、良好な人間関係を構築するためにも重要であることに気付くことが大切である。

本授業では、主人公が過ちに気付き、それを改めるときの心情や行動について考えることを通して、正直であることは、明るく伸び伸びとした生活の実現につながることに気付くきっかけとしていきたい。

II 本時の学習

1 **ねらい** 主人公が過ちに気付き、正直に伝えたときの心情や行動について考える活動を通して、正直に生活にすることの良さに気付き、正直に明るい心で生活しようとする態度を育てる。

2 人権教育の視点【育てたい能力・態度】

○感性 伸び伸びとした生活を送るためには、過ちや失敗を素直に認め、正直でいることが大切であることに気付く。

○実践力 正直であることの快適さを自覚し、これからの生活にいかそうとする。

3 展開

【★ICT 活用に関する事項】

主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される児童(生徒)の意識〔S〕	○指導上の留意点
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分) S : 正直でいることは大切だけどできていない。 S : 怒られるから、正直に話せないときもあるな。 <めあて> 「正直でいる」とはどういうことだろう。	○正直に対する価値について問題意識をもてるように、事前に実施したアンケート結果を提示し、正直でいることができたかを問いかける。 【★提示】
2 教科書の教材文の範読を聞く。(5分) 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(20分) 【★共有】 ◎どうして理子さんは、投票用紙が2枚残っていることを正直に伝えたのでしょうか。 S : ちょっとまよったけど、本当のことを言わないでいるとモヤモヤするから自分がスッキリするためにも伝えたと思う。 S : 友達は、正直に伝えた方が良い気持ちになるという意見だ。 ◇自分が理子さんだったら正直に伝えられますか。 S : 自分だったら正直に伝えられない。友達にも何と云われるか分からないから、黙ったままにするかも。 S : 友達は、正直に伝えると自分も友達も気持ちよく生活できるという意見だな。 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてももう一度考える。(5分) S : 正直に生活すると、スッキリした気分になるし、明るい気持ちで生活できるから自分にとっても、みんなにとってもいいな。	○話し合う場面を焦点化できるように、登場人物の行動について、挿絵を用いて板書する。 ○理子さんの心情や行動について、多面的・多角的に考えることができるように、3人グループで交流する場を設ける。 ○共通点や相違点を確認しながら交流できるようにハンドサインを活用するよう促す。 ○理子さんの葛藤する気持ちを考えることができるように、「だまっておけばいいよ」「深呼吸をした」などの言動を引用し、正直に伝えられなかった場合についても問いかける。 ○自分事として考えを深められるように、理子さんの立場だったらどうであるかを問いかけたり、アンケートの事例をもとに問いかけたりし、ペアで交流する場を設ける。 ○正直でいることで周りの人にも影響があることに気付くことができるように、問い返しをする。 ○めあてについてより深く考えることができるように、ペアで意見交流する。 ○友達の考えを参考にしながら、自分の考えをより確かなものにできるように、道徳的価値に迫る児童の考えを意図的に指名して紹介する。
5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。(10分) <振り返り> S : 正直でいると、自分だけでなく、みんなも気持ちよく学校生活を送ることができると思った。これからは、どんなときでも正直に過ごしていきたい。	○本時の学習を通して、気付いたことや考えたことをワークシートに記入するよう促す。 ○道徳的価値により迫ることができるように、意図的に指名して発表する場を設ける。

◆評価の視点

- ・発言、ワークシートの記述から、「正直でいることのよさや大切さについて、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。
- ・発言、ワークシートの記述から、「正直でいることのよさや大切さについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。